

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、_は下方に変更)

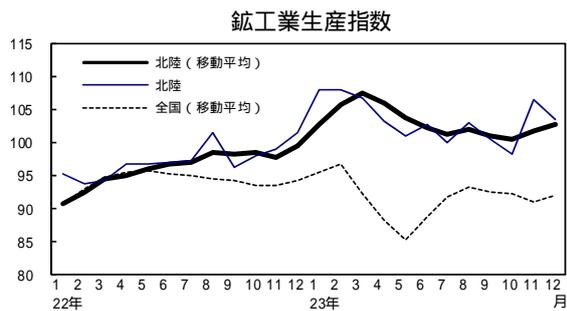
前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年11月)	今回(平成24年2月)	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、円高や海外経済の減速等を受けて金属工作機械や繊維機械等が減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの電子部品を中心に増加基調で推移した。化学は、後発医薬品(ジェネリック医薬品)等の生産増加を受けて大幅に増加した。金属製品は、復旧・復興需要やタイの洪水被害による代替生産等もあって増加した。繊維は、タイの洪水被害の影響が残っているほか、円高の影響もみられるが、繊維全体では増加となった。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

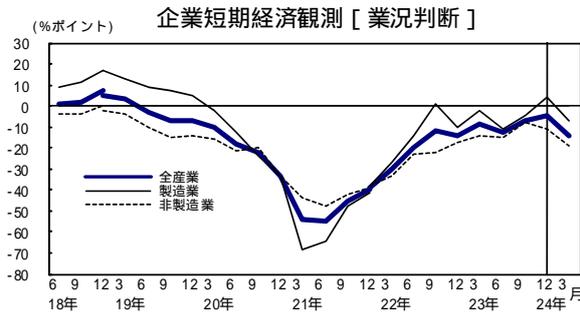
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	16.2	12.0	5.6	-	-
電子部品・デバイス	15.8	1.3	6.3	-	-
化学	14.5	2.6	6.8	-	-
金属製品	9.2	0.2	0.7	-	-
繊維	8.5	1.8	0.7	-	-
鉱工業	100.0	1.2	1.6	-	-

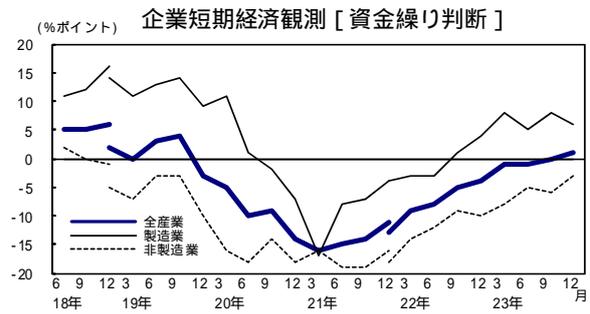
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

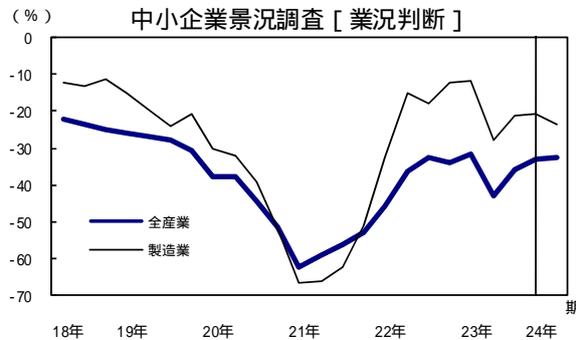
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

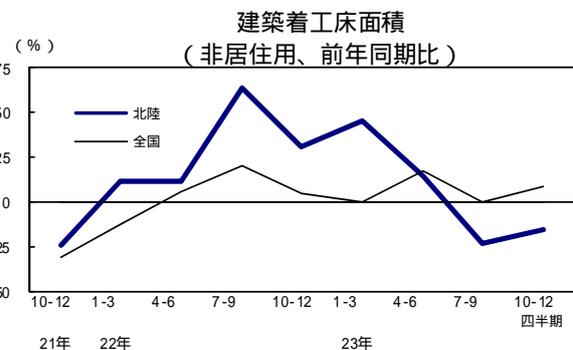
「国内、中国含めたアジア向けは堅調に推移している。しかし、特に欧州向け商品については為替の影響もあり厳しい状況が続いており、一部海外生産に移行したものもある(精密機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	24.3	0.8(3.5)
製造業	29.1	5.8(3.7)
非製造業	12.2	14.0(3.0)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

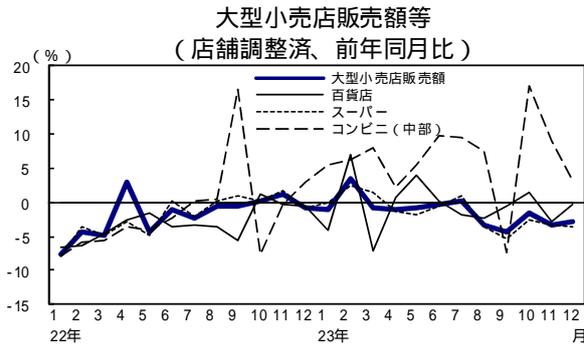
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で2.5%減、前期比で0.5%減となった。

百貨店は、10月は、中旬ごろまで気温が低めに推移し、秋物衣料の動きが良かったこと等から前年を上回った。一方、11月は、気温が高めに推移し、冬物衣料が伸び悩んだこと等から前年を下回った。12月は、年末商戦が底堅く推移したこと等から、前年比低下幅が縮小した。スーパーは、11月に気温が高めに推移したことや同業他社との競争激化の影響等から減少した。

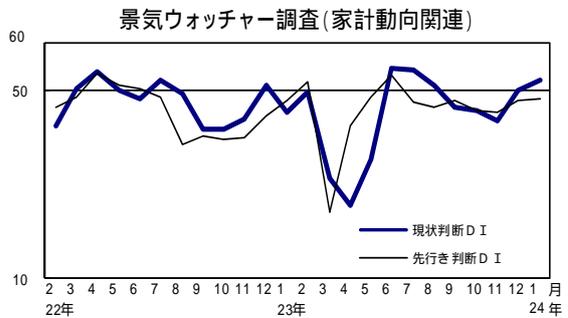
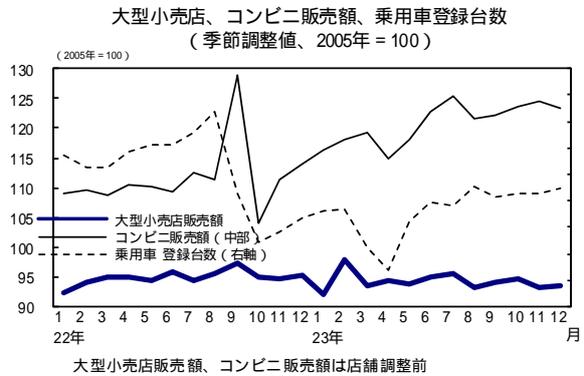
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「寒波の影響などもあり、長靴や手袋は前年同月比102%、風邪対策でマスクを中心とした医薬品が同150%、野菜の相場が高く同120%となったが、不要不急の商品は相変わらず売れず、前年割れの状況が続いている(スーパー)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	0.5	0.7	2.4	2.5
百貨店(*1)	1.9	1.5	1.6	0.6
スーパー(*1)	1.1	1.3	2.6	3.2
大型小売店(*2)	0.2	1.3	1.1	1.4
(季節調整値)(*3)	(0.6)	(0.1)	(0.1)	(0.5)
乗用車(*4)	26.8	30.9	16.8	22.6
(季節調整値)(*4)	(4.7)	(4.8)	(19.5)	(2.1)

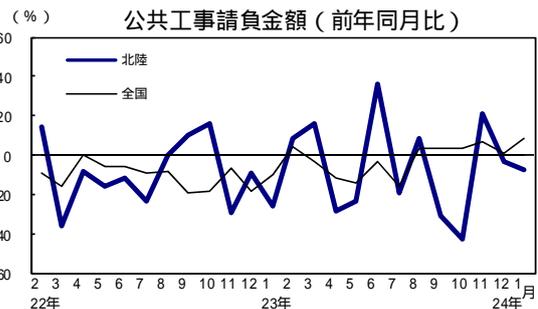
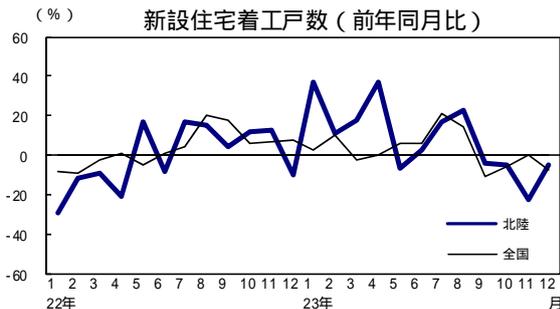
- (備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期比(%)
 3. 店舗調整前、前期比(%)
 4. 乗用車は新規登録・届出台数
 (上段:前年同期比、下段:前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから全体では減少した。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

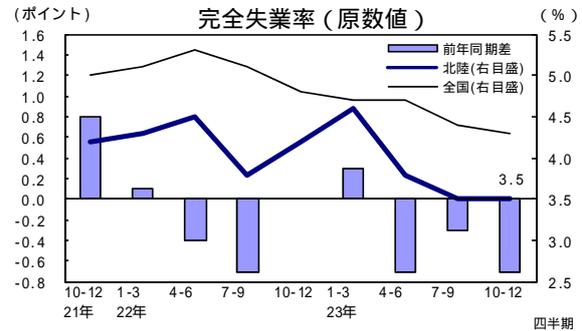


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

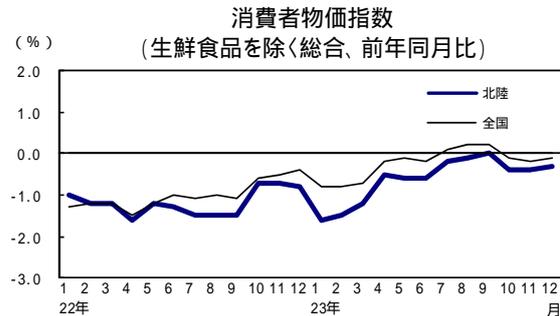
「新年に入り事業主の求人意欲は高く、新規求人数は、前年同月比、前月比とも大幅に増加しているものの、月末にかけて勢いがなくなってきた (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数	78	107	72	70	24
(前年比)	3.7	44.6	28.0	9.1	11.1
負債総額	173	223	201	238	38
(前年比)	40.6	56.2	34.3	15.6	47.3



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・小型HV車の新発売、補助金の復活やエコカー減税の継続が見込まれるなど、自動車業界を取り巻く環境は良い状況になっている。販売促進のための大型イベントは計画以上の受注が確保できた (乗用車販売店)

<先行き>

・外国為替市場でユーロが少しずつ戻っているの欧州からの受注に期待ができる。また国内も本格的な復興需要が出ると見ている (一般機械器具製造業)

